

迷惑メール判別と人の誤認要因の分析

坂出商業高等学校 松本遥空 住田礼響

● 研究背景

近年、電子メールは個人・企業問わず主要なコミュニケーション手段として利用されている。それに伴い、電子メールを悪用したフィッシング詐欺等の手段は年々巧妙化し被害が増加している。こうした背景のもと、利用者自身がフィッシングメールと正規のメールを正しく判別できる方法を研究する必要があると考えた。

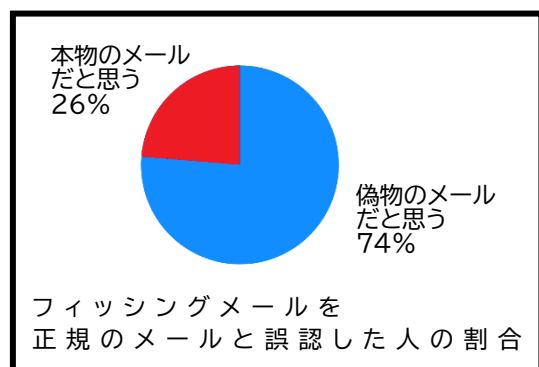
● 目的

フィッシングメールと正規メールを判別する際に人がどのような要素に着目し、どのような点で誤認をしやすいのか明らかにすること。

● 方法

- ① 正規のメールをもとに生成 AI を用いてフィッシングメールの生成
- ② 生成したメールをもとにメールの真偽とその際着目した要素を選ぶアンケートを作成
- ③ 回答を集めグラフにまとめる

● 結果 アンケートを集計しグラフにまとめたもの(坂出商業校生:140人)



URL を踏ませる怪しい単語	84 件
緊急性などを思わせる単語	71 件
個人情報を要求してきた	70 件
日本語が不自然	63 件
警告やアカウントなどの単語	43 件
金額に関する単語	42 件
不信感を感じやすい単語(複数選択可)	

今回の結果から人は URL に誘導する文言や「期限内に」という言葉に不信感を抱きやすいことが分かった。また、正規のメールでもそういった言葉があることでフィッシングメールと誤認し必要な手続きを行わない可能性があることが分かった。

● 考察

今回の研究により、多くの人が URL や文言の不自然さに注目して判断していると分かった。こうした特徴に気付けない高齢者や情報に疎い人に向けたわかりやすい注意喚起や自動判別ツールの作成を考える必要があると考察できる。